

自閉スペクトラム症

有病率 1－2%

予後関連因子: 早期の対人領域の機能

早期支援の有無

合併精神障害の有無

DSM-5

〈神経発達症群〉

- 知的能力障害群

知的能力障害(知的発達症/知的発達障害)

- 注意欠如多動症(ADHD)

- 自閉スペクトラム症(ASD)

- 限局性学習症

読字障害、書字障害、算数障害

- コミュニケーション症群

言語障害、構音障害、吃音、社会的コミュニケーション症

- 運動症群

発達性協調運動症、チック症、常同運動症

DSM-5における自閉スペクトラム症 (Autism Spectrum Disorder) の定義

A.複数の状況で社会的コミュニケーションおよび対人的相互反応における持続的な欠陥があり

- (1)相互の対人的-情緒的関係の欠落
- (2)対人的相互反応で非言語的コミュニケーション行動を用いることの欠陥
- (3)人間関係を発展させ、維持し、それを理解することの欠陥

現時点あるいは病歴上、上記3項目すべてを満たす

B.行動、興味、または活動の限定された反復的な様式で、

- (1) 常同的または反復的な身体の運動、物の使用、または会話
- (2) 同一性への固執、習慣への頑ななこだわり、または言語的、
非言語的な儀式的行動様式
- (3) 強度または対象において異常なほど、きわめて限定され執着する興味
- (4) 感覚刺激に対する過敏さまたは鈍感さ、
または環境の感覚的側面に対する並外れた興味

4項目中少なくとも2項目に当てはまる

C.症状は発達早期に存在していなければならない。

(しかし社会的要求が能力の限界を超えるまでは症状は完全に明らかにならない
かもしれないし、その後の生活で学んだ対応の仕方によって隠されている
場合もある)

ASDと診断するには、、、

A項目（人との関わりやコミュニケーションの困難さ）を満たし、

さらに**B項目**

（常同行動、こだわり、限定的な興味、感覚過敏・鈍麻）

のうち2つ以上に該当する必要がある。

また、発達早期に症状が存在している（**C項目**）ことの
確認が必要。

対人・社会性の問題

- 表情や話しぶり、視線などから相手の気持ちをくみ取ることができない。
- アイコンタクト、表情、身振りを適切に使えない
- 想像力を働かせ、相手の気持ちや意図を察しながらやりとりすることが難しい
- 暗黙の了解がわかりにくい
- 共感性がないわけではないが、その瞬間に、人が理解していること、
感じていることを理解することが難しい
- 言ってよいことと悪いことの見分けが難しい
- 孤立する、受け身すぎる、一方的すぎるなど、双方向性の対人関係が
うまく構築できない
- 友人と親密な関係を築けない
- 感情のコントロールが難しい(自分の感情に気づきにくい)

コミュニケーションの問題

- しゃべるほど理解していない。しゃべる割には意思表示ができない
- 難しい言葉を知っているが、自分の考えていることを
概念化することが困難。一見正しく話しているように見えても、
よく聞くと微妙に間違った話し方をしていることがある
- 相手の言ったことをそのまま受け止めてしまうので、
あいまいな聞き方が苦手
- その場で何が話題になっているのか、言外の意図を読み取ることが
苦手なので、どうにでも取れる質問に答えるのは難しい
- 必要なメッセージの交換に問題がある
- 普段は喋れるのに、いつもと違う状況ではフリーズして
ことばを組み立てることができない

想像性や興味関心の問題

- 見えないもの(概念)を想像することが難しい
- 独特な興味関心。電車や昆虫、恐竜、数字、地図などの特定のものごとに強い興味を持つが、その範囲は狭い
- 興味関心のあるものは楽にできるが、興味関心のないものには膨大なエネルギーを要する
- 興味関心のないことにはほとんど手を付けない
- こだわりに逃げる
- 何かをするときの手順、物の並べ方などがいつも同じでないと気が済まない
- 想定と違うことへの不安が強く、乱暴な言動に出てしまうことがある
- 経験していないことを想像することが難しい
- 見通しが立たないと不安になる

認知や記憶、感覚の問題

- 1対1対応で覚えられるものは得意
 - 文字、記号は得意 → 日常会話のやりとりが難しいうちから、文字が読めたりする
 - 手順を覚えればできる計算は得意
 - 場面がイメージできないので文章題からの立式は苦手
- 見ている部分は狭いが解像度が高い(シングルフォーカス)
- 柔軟に、臨機応変が苦手
- 忘れられない脳(フラッシュバック)
- 飛び跳ねたり、おもちゃの車のタイヤを回し続けたりするなど、同じ行動を延々とくりかえす
- 味覚、聴覚、触覚等の問題。同じ感覚領域に過敏なところと鈍いところが共存する
- 気温、気圧にも影響される

ASDの子どもの感覚過敏・鈍麻

- 感覚過敏を緩和する補装具を使って初めて
自分が如何に困難にさらされているかに気づく
- 自分だけ特別な困難を抱えているとはとらず、みんなも同じように
我慢しているととらえていることが多い
- 健常者にとっては問題ない感覚刺激によって、思考が中断するほどの
影響を受けている
- 取り組んでいる課題への興味や、本人にとって安心するモノ・ヒトの
有無により、同じ感覚刺激でも激しい自傷に至ることもあれば、
過集中で乗り切れることもある。これには体調も関与する
- 過集中で乗り切れても、それを繰り返していると身体的な健康を損なう

各年代で見えてくるASD特性

非言語コミュニケーションが苦手なので、
2歳頃特性が見えやすく、この頃の診断は信頼性が高い

社会性の発達の日安とポイント

ノンバーバルな社会性の土台は1歳半までに飛躍的に発達します

生後10カ月前

大人とのやりとり遊びを一緒に楽しめる

- 目が合う
- 名前を呼ぶと反応する
- 微笑みかけると微笑み返す
- 他の子どもに興味を示す

11か月～12か月

大人と興味を重ね合わせるようになる(共同注意)

- 大人の注意をさかんに引こうとする
- 大人のまねをする
- 大人が指したものを見る
- 興味があるものを指さして伝える

15か月～17か月

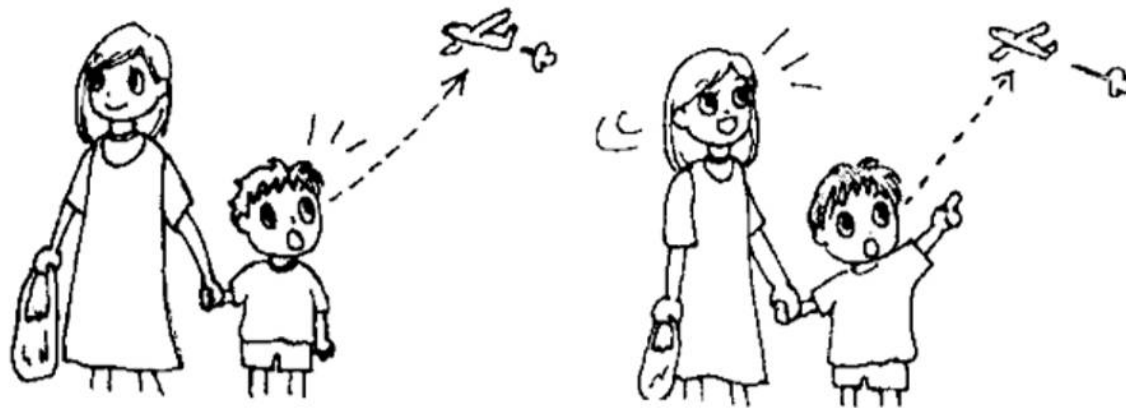
大人との共有の方法がさらに複雑になる

- 興味があるものを見せに持ってくる
- 大人の視線を追って、大人が見ているものを見る
- いつもと違うことがあると、親の顔を確認する

ASD児では特に1歳前後の社会性の発達で徐々に問題が明らかになってきます。

共同注意：興味の指さし

#7 何かに興味を持った時、指をさして伝えようとしていますか？



- * 「ほしいもの」ではなく「興味を持ったもの」
- * [左図]興味を持っても共有しようとしな(指さししない)
- [右図]指さして共有しようとする

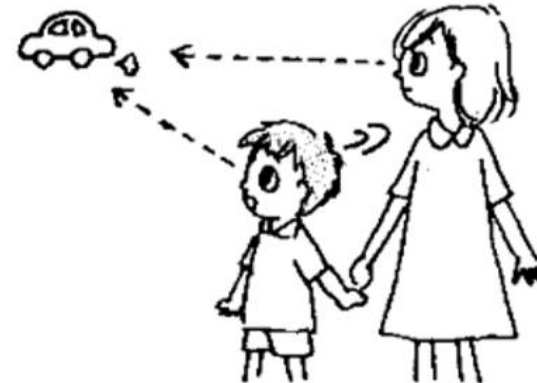
日本語版M-CHATより

共同注意:視線の追従

#17 おかあさんが見ているモノを、お子さんも一緒に見ますか？



まず、親が車に注目
していることに気づく



親の視線を追って、
親が注目した車を見る

日本語版M-CHATより

10代の自閉スペクトラム症

- 10歳直前(8-10歳)に他者の心の認知が一挙に進む転回点
(こころの理論の成立)がある
→ 他者の心、とりわけ悪意に過敏となり混乱を生じる
→ 不登校、引きこもりへ
(ひきこもりの4分の1、不登校の4分の1に自閉スペクトラム症)
- それまで何の疑いもなくこだわってやっていたことに、
こんなことをやっても仕方がないのではという不全感や違和感が
伴うようになる→ 強迫的に
- 進学により支えとなっていた学習で躓く
- 友人の評価が大切になってくる。友だちがいないことに焦り始める
“みんな意地悪だ”(思春期前は一人でいても大丈夫だったが)
- 偶像崇拜
- 進学するにつれて複雑になるので構造化が必要になる

青年期、成人期に気づかれるASD

- 言行一致で信頼できる
- 正義感や思いやりがある
- 臨機応変な対人関係は苦手
就職活動、子育てで躓くことが多い

知的に高いために見過ごされてきたケース

- 一人暮らしでの躓き
- 自分で調整することを求められるようになり躓く

自閉スペクトラム症の対人交流

■孤立型

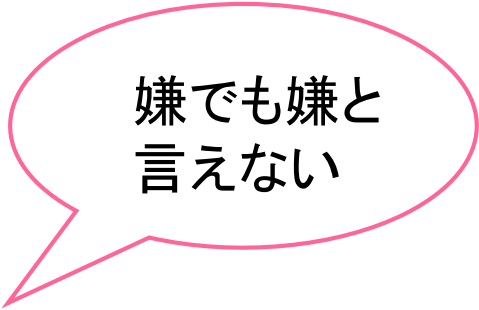
人への関心が極めて乏しい

■受動型/受身型

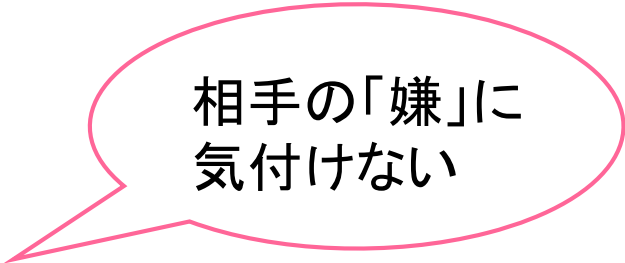
自分からは対人関係を開始しないが
人が関わってくると拒否しない

■積極奇異型

対人関係を持とうとするが不適切にしか関われない



嫌でも嫌と
言えない



相手の「嫌」に
気付けない

ASDの認知特性の理解と対応

1対1対応が明確なものの習得は得意

汎化の課題が大きく、実質的な内容理解を伴っていないことが多い

独特なとらえで言葉を用いていることも多い

→ 話しているほどには理解していない

知能検査の群指数で判断してはいけない

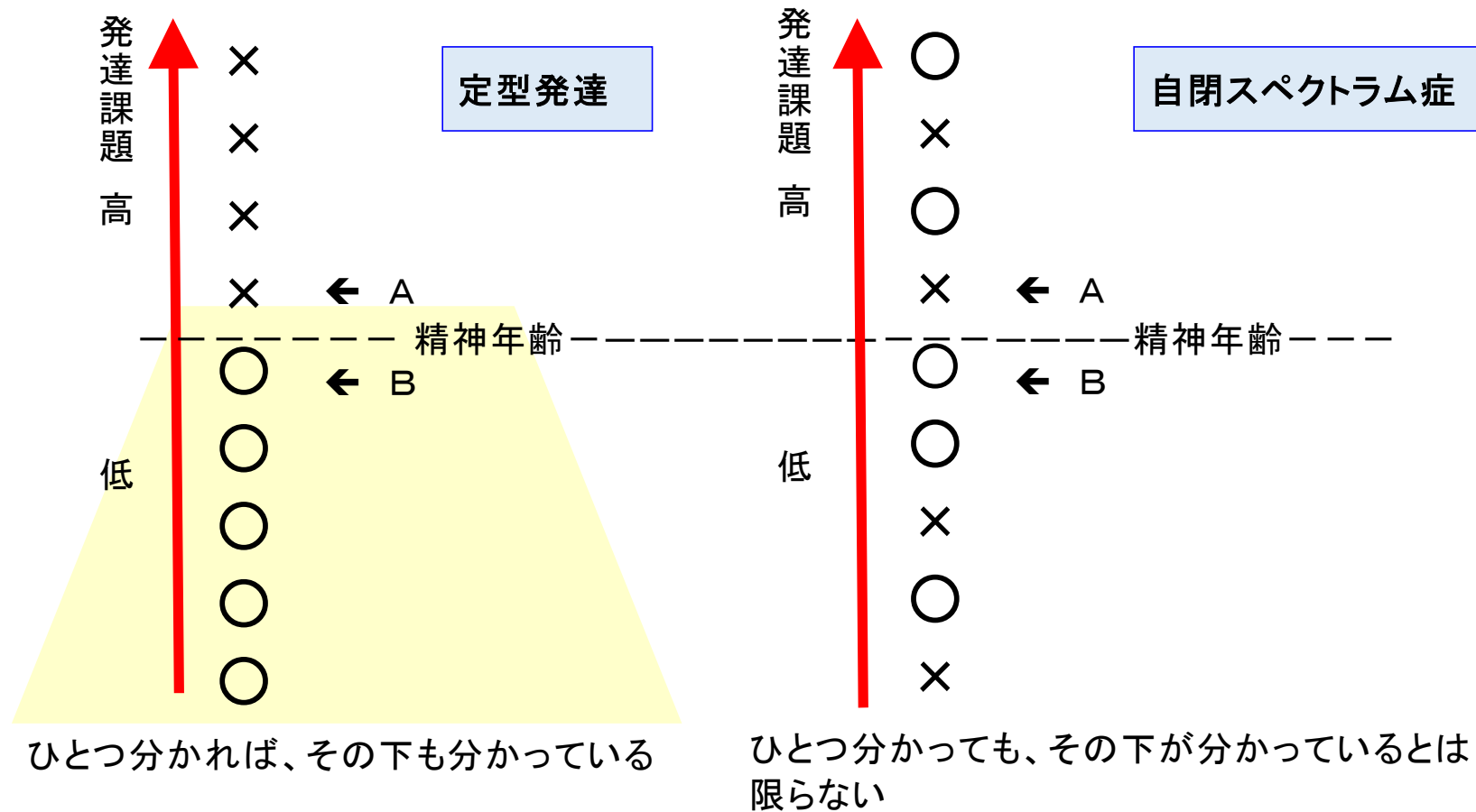
質的な障害 (distinctive impairment)

	正常	知的能力障害	自閉スペクトラム症	
↑	二語文(ママきた)	24 か月	48 か月	36 か月*
	簡単な命令に従う	18 か月	36 か月	72 か月
	語彙が増える	15 か月	30 か月	24 か月*
	言葉が出る	12 か月	24 か月	18 か月*
	喃語	9 か月	15 か月	48 か月
	人に声を出す	6 か月	9 か月	6 か月
	人に笑いかける	2 ~ 3 か月	3 ~ 4 か月	60 か月
	目が合う	1 か月	1 か月	42 か月
		量的な障害	質的な障害	

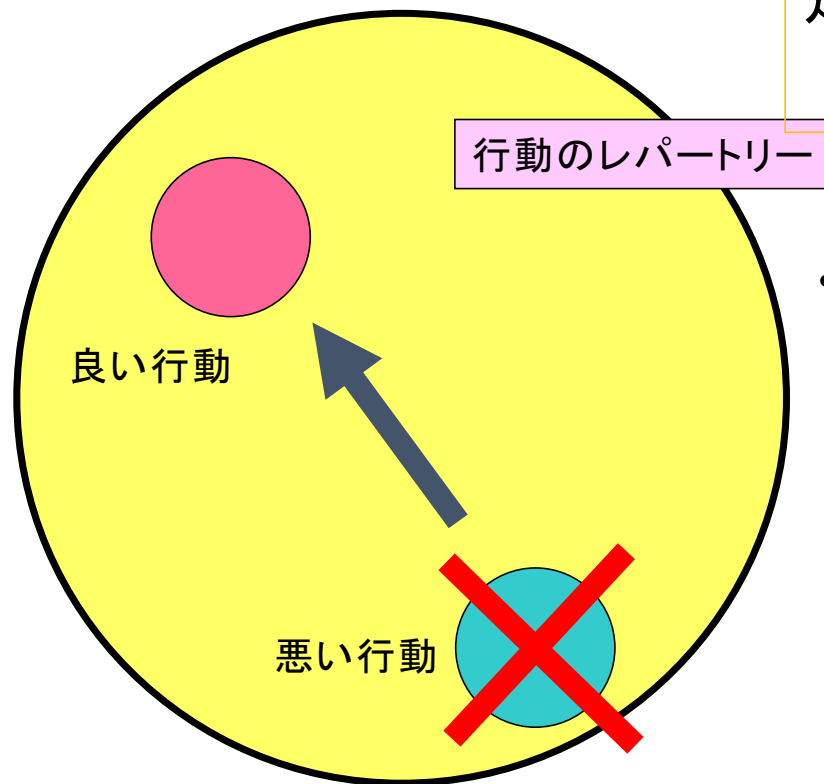
* おうむ
がえし

- 自閉スペクトラム症の場合は、発達の順番自体が異なる
- 発達の方が違う

IQは同じ100でも、、



行動のレパートリー: 定型発達



定型発達の子どもは
行動のレパートリーが広い

- 悪い行動(●)を禁止する(✕)と、
自分が持つ行動のレパートリーから、
良い行動(●)を選択できる。

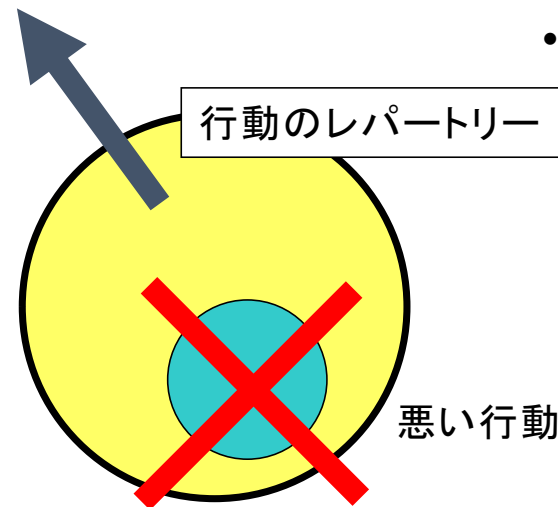
→ 禁止も有効

行動のレパートリー：自閉スペクトラム症



良い行動

自閉スペクトラム症の子どもは、
行動のレパートリーが狭い



- 悪い行動 (●) を禁止しても (X) と、
自分が持つ行動のレパートリーには、
良い行動 (●) がない

→ **禁止は無効**

自閉スペクトラム症への対応

★叱るよりほめる

適切な行動を知らないために、不適切な行動をとってしまっている



適切な具体的な行動を教えこむことが対策
適切な行動をとらせて、ほめる
よい行動にのみかかわるというのが対応の基本



結果として、ほめられる行動が増え、
不適切な行動が減る

悪い行動を直そうと
一生懸命努力すると
かえって悪い行動を定着
させてしまうことがある

自閉スペクトラム症への対応

★かかわった行動が残る

■望ましい行動、増やしたい行動にのみかかわる

→ その行動が増える

○どのようにかかわってもらうことを、うれしい、心地よいと感じるかを探ることから

○ほめ言葉、頭をなでるなどの一般的な方法では“ほめられた“

”うれしい“とは感じていない場合も・・

対人関係障害があるので、周りにどう思われる、恥ずかしいと
いったことが行動規範にはなりにくい

■望ましくない行動には極力かかわらない

→ 望ましい行動が増えれば、自然と望ましくない行動は減る

自閉スペクトラム症への対応

★こだわりは生活の支障にならない形に

- **こだわり行動に周囲がふりまわされない**
全てのこだわり行動をなくそうとは思わないこと。逆に、良いパターンは生かす
変更しやすい因子から少しずつ変えていく
- **こだわり行動を短絡的に禁止してはいけない**
こだわり行動を禁止するときには、他の逃げ道をつくっておく
ただし、その逃げ道がこだわり行動になってしまうことを理解しておく
- **こだわりが問題になるのは、「暮らしへの支障となる」か「終わることができない」状況**

高機能自閉スペクトラム症

- 自閉スペクトラム症の大半を占める。
- IQ値(知能検査の数値)は自閉スペクトラム症の重症度と無関係
- 適切な対応につながる診断が遅れることが多い
中央値10歳 Kamio et al,2012
- 幼児期診断がなされていることは成人期の主観的な予後(QOL)予測の要因のひとつである Kamio et al.2012

知的遅れの少ない自閉スペクトラム症のリスク

“知的に遅れがないので様子を見ましょう”には大きな落とし穴が・・・

うまくいかないことが続き、非難されることが続く



特性への自覚がはぐくまれず、被害者意識だけが強くなり
なんでも人のせいにするようになる

“自分は悪くない。あいつが悪い。”
“誰も自分のことをわかってくれない”
“自分なんかいなくなればいいんだ”



不信感、自己防衛が強くなり、適切な支援を拒否するようになる
“自分はそんなんじゃない”

→ 不登校・ひきこもり



信頼関係の
喪失

自閉スペクトラム症への対応

★共感

- 他人を困らせる不適応行動も、あえて困らせようと思ってしているわけではないことへの “共感”
 - 適切な行動を知らなかったため、本人なりに考えてとった行動である
 - 行動だけを見て頭ごなしに叱らない
 - 本当は〇〇しようと思ってしたんだよねと、共感したうえで、誤解を生む行動であることを教え、適切な行動を教える
- 頭ごなしに叱ると、「誰も自分のことをわかってくれない」という思いが募り、指導を受け付けなくなる。
 - このような経験が積み重なると、被害的にとらえるようになる
どうせ自分ばかり…。わざとやられる…。
自分は悪くない…。

自閉スペクトラム症への対応

★アンガーコントロール

- 相手から言われたことを、対人関係障害ゆえに勘違い
(多くは被害的にとらえる)してしまい、イライラし怒りを爆発させる



相手の真意を説明され、頭では理解できても、
とっさにイライラする状態はしばらく継続する



わかっていてもイライラしてしまうことに“共感”し
“アンガーコントロールの方法”を一緒に考えてあげる
深呼吸する、3つ数える、席をはずすなどの
“怒りを相手にぶつけない対応＝周囲に許容される対応”を
一緒に考える

「気にしなくていい」だけでは、
児の困り感は何も解決されない

自立に向けて

苦手を伝える力、助けを求める力をつける。

- 少数派の脳のタイプ

⇒理解してもらうには、自分から伝えることが必要。

困り感を言語化し伝える力をつける

できないことは
自ら相談する力

- 相談してうまくいった経験を積み重ねることが大切

自ら申し出ることが定着してくるまでは、本人が申し出たときには
必ず退避行動をとらせてあげるようにする。

最初から、もう少し頑張ってみなさいと言ってしまうと相談しても無駄だと思
い込んでしまう。

想定外の展開にならないよう、あらかじめルールをきちんと決めておく